

应试宝典
系列丛书

主审◎蔡全胜 主编◎崔平

日语专业四、八级 高分大突破

大连外国语学院 组编

八级

[文字·词汇/语法/听解/写作篇]

- ◆ 在原命题专家的全程指导下编写而成的一部权威经典题库
- ◆ 具有多年辅导经验的一线教师全力打造而成的一部应试宝典



吉林人民出版社

H360.42/61

图书在版编目(CIP)数据

日语专业四、八级高分大突破: 八级文字·词汇、语法、听解、写作篇/崔平主编. —长春: 吉林大学出版社, 2009.3

(应试宝典系列丛书)

ISBN 978-7-5601-4225-8

I. 日… II. 崔… III. 日语—高等学校—水平考试—自学参考资料 IV. H360.42

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 037237 号

书 名: 应试宝典系列丛书

日语专业四、八级高分大突破: 八级文字·词汇/语法/听解/写作篇

作 者: 崔平 主编

责任编辑、责任校对: 孟亚黎

吉林大学出版社出版、发行

开本: 787×1092 毫米 1/16

印张: 11.875 字数 180 千字

ISBN 978-7-5601-4225-8

封面设计: 殷成年

石家庄海德印刷有限公司印刷

2009 年 4 月 第 1 版

2009 年 4 月 第 1 次印刷

定价: 25.00 元

版板所有 翻印必究

社址: 长春市明德路 421 号 邮编: 130021

发行部电话: 0431-88499826 订购电话: 0411-82303844

网址: <http://www.jlup.com.cn>

E-mail: jlup@mail.jlu.edu.cn

编委:(按汉语拼音排序)

蔡全胜 韩晓萍 黄 健 罗米良
刘 艳 时 代 于永梅

前 言

日语专业四、八级考试,是教育部为了检查各高校日语专业对教育部制定的《高等院校日语专业教学大纲》的执行情况,由教育部高等学校外语指导委员会日语组负责命题与实施的一项考试,是检查学生是否达到“大纲”规定的四、八级水平所要求达到的综合语言技能和交流能力。这项考试是评估教学质量,推动学校间日语教学交流的一种措施,已受到越来越多高等院校和日语学习者的关注。为了使广大考生顺利通过该项考试,我们组织编写了《日语专业四、八级高分大突破》系列丛书。该套丛书是由著名日语教育家、原《日语专业四、八级考试》命题专家蔡全胜教授全程指导下、并亲自担任主审,会集具有多年该项考前辅导经验的一线教师,根据《日语专业四级考试大纲》和《日语专业八级考试大纲》编写而成。目的是对考生进行系统、全面的训练与辅导,使之顺利地通过日语专业四、八级考试。

该册书由四部分组成:

第一部分为文字·词汇篇:包括历年试题出现的文字·词汇和需要重点掌握的文字·词汇及相应的专项练习。

第二部分为语法篇:包括历年试题出现的语法、句型、敬语解析及相应的专项练习。列举了128个惯用句型,对其接续法、意义作了注释,并对每一个句型举例说明。

第三部分为听解篇:在对试题进行综合分析的基础上,对历年试题题型进行分类汇总,并且对试题进行了预测。

第四部分写作篇:因历年写作部分考题主要以命题作文为主,本篇首先在介绍作文的写作方法的基础上,着重对命题作文的写作方法进行分析,并附有写作例文。

最后则模拟真实考题的题型、难度、题量等编制出听解模拟题,以检查考生学习和掌握的情况。因此,本书的特点主要在于考试内容分析透彻,学习要点提示明确,专项练习针对性强。

本书在编写过程中,参阅了许多国内外相关资料,在此一并表示感谢。由于编者的经验、水平有限,难免有不足之处,敬请专家和读者指正。

编 者

2009年2月

目 录

第一部分 文字·词汇	1
一、历年试题出现的文字·词汇(2002 年—2006 年)	1
二、重点掌握文字·词汇一览表	3
专项练习	29
三、副词	37
专项练习	45
四、惯用语·常用语·谚语	47
专项练习	62
第二部分 语 法	66
一、历年试题出现的语法(2002—2006 年)	66
二、句型	67
专项练习	102
三、敬语解析	109
专项练习	113
第三部分 听 解	118
一、试题综合分析	118
二、历年试题题型分类与汇总(2002 年度~2006 年度)	118
三、试题预测	126
历年考试真题汇总(2002 年度~2006 年度)	128
听解模拟题	146
第四部分 写 作	166
写作方法	166
命题作文分析与解答例	170
作文例	176
参考答案	180

第一部分

文字・词汇

一、历年试题出现的文字・词汇(2002 年—2006 年)

◆ 2002 年

単語	読み方	例文
身勝手	みがって	あいつは身勝手な男だ。
万障	ばんしょう	万障繰り合わせる。
弾く	はじく	そろばんを弾く。
迫力	はくりょく	迫力を欠く演説。
日向	ひなた	日向ぼっこをする子供たち。
生粋	きっすい	生粋の江戸っ子。
屈指	くっし	県内屈指の企業家。
強気	つよき	採用する側は強気になった。
吉報	きつぼう	吉報をまっている。
消印	けしいん	消印のある手紙。

◆ 2003 年

単語	読み方	例文
靡く	なびく	風に靡く。
捜す	さがす	落としたものを捜す。
持病	じびょう	ぜんそくの持病がある。
野次	やじ	野次うまにのる。
折檻	せっかん	子供を折檻する。
佇む	たたずむ	庭に佇む。
人気	ひとけ	人気のないところ。
布地	ぬのじ	いい布地があった。
界限	かいわい	この界限には店が多い。
嫁ぐ	とつぐ	商家に嫁ぐ。

◆ 2004 年

単語	読み方	例文
論壇	ろんだん	生活方式の変化は論壇の話題になった。
白粉	おしろい	彼女は生まれつきの美人で、白粉などいっさい必要としない。
主旨	しゅし	この規定には、権利の上に長くあぐらをかいている者は民法の保護に値しないという主旨も含まれている。
自己本位	じこほんい	彼らはすでに自己本位を乗り越えて社会の未来に目を向けて、幸福を考えている。
享受	きょうじゅ	文化は、それがつくり出された時代において享受されるに止まるものではない。
優遇措置	ゆうぐうそち	君はなかなかよく仕事をやっているそうだから、優遇措置を受けるのは当然のことだ。
傍若無人	ぼうじゃくぶじん	時によって自分と関係のない外のものに対しては傍若無人のふるまいをするという場合もある。
問屋	とんや	そうは、問屋はおろしてくれないだろう。
満更	まんざら	私も商売人上がりですから、この商売は満更素人でもないんですよ。
大風呂敷	おおぶろしき	せめて商品と並んで高度の福祉を輸出するというような大風呂敷の持ち合わせはないものか。

◆ 2005 年

単語	読み方	例文
境内	けいだい	境内での喫煙は御遠慮ください。
湿地	しっち	土偏に花という字は古くからの国字で、湿地の意味である。
象形文字	しょうけいもじ	一般的には漢字の原型イコール象形文字と考えがちだが、むしろ形声文字こそ漢字の代表である。
御中	おんちゅう	封筒には、個人宛ではなく、中山区役所御中と書いてある。
蛇足	だそく	中国語の「画蛇添足」は日本語では蛇足という。
規制	きせい	常用漢字の特徴は規制色の強い当用漢字とは性格を異にしている。
術	すべ	改めて確認するまでもなく、どの説が正しいかを説明する術はない。
盲点	もうてん	漢字のバイブルである『大漢和辞典』にも意外な盲点がある。

寄与	きよ	この高度情報化社会の到来に大きく寄与したのはJIS漢字である。
隙	すき	ちょっと席を離れた隙に泥棒に入られた。

■ 2006 年

単語	読み方	例文
歯車	はぐるま	人間同士というものは、一つでも歯車が食い違っただけで、傷付け合ったりいがみ合ったりするものだ。
絶滅	ぜつめつ	約1万年前に絶滅したとされるマンモスガシベリアの永久凍土から発掘され、グローバル・ハウスで展示される。
落語	らくご	商店街の中には、漫才や落語、唄に踊りが繰り広げられる演芸場もある。
肥える	こえる	神戸の洋菓子屋は、舌の肥えた神戸っ子を今も魅了し続けているのだ。
面影	おもかげ	碁盤の目のように道路が走る整然とした町並みを歩くと、開拓時代の面影を残す西洋風の館を見ることができる。
足袋	たび	足袋は洋装でいえば靴下のようなもので、草履や草靴などと併用される。
堅気	かたぎ	意気な細君らしくなった豊世の風俗は、昔堅気のお婆には気に入らなかった。
素足	すあし	18世紀後半、江戸の庶民の典型的な風俗。娘は素足に下駄、侍女は草履を履いている。
版画	はんが	漫画は、江戸時代になると、木版技術の進歩により、版本・版画として生み出されていく。
絵巻(物)	えまき(もの)	アニメは、世界に誇る日本の文化。その原点へとれば、漫画、浮世絵、そして12世紀の絵巻物につながる。

二、重点掌握文字・词汇一览表

単語	読み方	例文
あ		
哀願	あいがん	助命を哀願する
愛嬌	あいきょう	愛嬌のある娘
愛好	あいこう	古典音楽を愛好する
愛想	あいそ	愛想のない人

間柄	あいだがら	親友の間柄
哀悼	あいとう	深く哀悼する
愛用	あいよう	父が愛用した万年筆
青白い	あおじろい	青白い月の光
青菜	あおな	青菜に塩
煽る	あおる	カーテンが風に煽られる
靴	あかぎれ	母の手は靴が切れている
足掻く	あがく	どろ沼からはい上がろうとして足掻く
証	あかし	証を立てる
暁	あかつき	暁を告げる鶏鳴
垢抜け	あかぬけ	まだ垢抜けがしていない
商い	あきない	彼は商いが上手だ
灰汁	あく	灰汁のない水
齷齪	あくせく	齷齪して暮らす
悪夢	あくむ	悪夢から覚める
胡座	あぐら	胡座をかく
明け透け	あけすけ	明け透けにものを言う
曙	あけぼの	古代文明の曙
朝顔	あさがお	朝顔の花一時
嘲る	あざける	人を嘲る
浅瀬	あさせ	浅瀬に乗りあげる
欺く	あざむく	甘言をもって欺く
海豹	あざらし	あざらし肢症
漁る	あさる	海に出て魚を漁る
葦	あし	葦の節の間
足跡	あしあと	足跡を残す
足摺	あしずり	彼は足摺して叫びぬ
足場	あしば	足場を組む
小豆	あずき	小豆がゆ
畦	あぜ	畦道
褪せる	あせる	日にやけてカーテンの色が褪せた
仇	あだ	父の仇を討つ
徒	あだ	せっかくの好意も徒になる
頭数	あたまかず	頭数をそろえる
厚板	あついた	厚板ガラス
呆気	あつけ	呆気にとられる
悪口	あっこう	他人の悪口を言いふらす
厚地	あつじ	厚地のカーテン

圧縮	あっしゅく	気体を圧縮する
斡旋	あっせん	就職の斡旋をたのむ
誂える	あつらえる	背広を誂える
宛がう	あてがう	破れめにつぎを宛がう
穴埋め	あなうめ	損失の穴埋めをする
侮る	あなどる	敵の力を侮る
痘痕	あばた	痘痕もえくぼ
脂気	あぶらけ	脂気のあるものがあるから火に注意しろ
炙る	あぶる	のりを炙る
雨間	あまあい	この雨間に出かけようか
雨足	あまあし	雨足が激しい
甘党	あまとう	私は酒が飲めず甘党です
網棚	あみだな	網棚の中
綾錦	あやにしき	綾錦を身にまとう
粗	あら	魚の粗でだしをとる
抗う	あらがう	権勢に抗う
粗方	あらかた	粗方理解した
荒削り	あらけずり	荒削りの材木
霰	あられ	大降りの霰
露	あらわ	肌も露に
行脚	あんぎゃ	諸国行脚に出かける
安穩	あんのん	無事安穩
塩梅	あんばい	塩梅をみる
安否	あんぴ	安否を気づかう
暗躍	あんやく	政界の裏面で暗躍する
い		
許嫁	いいなずけ	あの人とは許嫁の仲です
家柄	いえがら	あの方は家柄の生まれだ
家筋	いえすじ	家筋が絶えた
家出	いえで	娘が家出する
癒える	いえる	病が癒える
庵	いおり	庵を結ぶ
烏賊	いか	烏賊は墨を吐く
鋳型	いがた	鋳型にはめる
経緯	いきさつ	事件の経緯を説明する
息詰まる	いきづまる	息詰まる熱戦
憤る	いきどおる	テロの横行を憤る
意気地	いくじ	意気地がない

生垣	いけがき	生垣をめぐらした庭
生け捕り	いけどり	熊を生け捕りにする
憩い	いこい	憩いの時間
居心地	いごち	このすまいは居心地が良い
遺言	いごん	遺言を書く
諍い	いさかい	諍いを起こす
潔い	いさぎよい	潔い心
勇む	いさむ	勇んで出発する
石垣	いしがき	城の石垣
礎	いしずえ	礎を築く
萎縮	いしゆく	寒くて手足が萎縮した
意匠	いしょう	意匠をこらす
委嘱	いしょく	研究を民間人に委嘱する
弄る	いじる	この機械を弄るな
意地悪	いじわる	意地悪な店のおやじ
磯	いそ	磯で魚をとる
居候	いそうろう	友人の家に居候にする
勤しむ	いそしむ	仕事に勤しむ
委託	いたく	任務を代理人に委託する
居丈高	いたけだか	居丈高になってののしる
鼬	いたち	鼬の最後っぺ
韋駄天	いだてん	韋駄天のように走る
板前	いたまえ	板前の腕のみせどころ
一衣帯水	いちいたいすい	中国と日本とは一衣帯水の隣邦である
無花果	いちじく	無花果を食ふ百姓の短き指
一途	いちず	一途に信じ込む
一存	いちぞん	私の一存では決めかねる
一部始終	いちぶしじゅう	事件の一部始終を語る
意中	いちゅう	意中を察する
銀杏	いちょう	銀杏に切る
一蓮托生	いちれんたくしょう	死ぬも生きるも全員一蓮托生だ
一喝	いっかつ	だまれと一喝した
一括	いっかつ	一括して提出する
一揆	いっき	百姓一揆
一挙	いっきょ	敵を一挙に粉碎する
慈しむ	いつくしむ	子を慈しむ
溢血	いっけつ	脳溢血
一石二鳥	いっせきにちょう	一石二鳥の名案

一張羅	いっちょうら	一張羅の服を着てパーティーに出かける
一点張り	いってんぱり	彼は頑固一点張りだ
一風	いっふう	一風変わった男
一服	いっぷく	一服すすめる
一変	いっぺん	形勢が一変する
一辺倒	いっぺんとう	米国一辺倒の政策を検討する
逸話	いつわ	人のよさを物語る逸話
偽る	いつわる	事実を偽る
遺伝子	いでんし	遺伝子突然変異
糸口	いとぐち	解決の糸口がつく
暇	いとま	熟考する暇がない
稲妻	いなずま	稲妻が光る
命乞い	いのちごい	この場に臨んで命乞いなど決してしない
衣鉢	いはつ	師匠の衣鉢を継ぐ
軒	いびき	大きな軒をかく
歪	いびつ	つぶれて歪になる
訝しい	いぶかしい	彼の言動には訝しいところがある
息吹	いぶき	のどかな春の息吹
燻す	いぶす	蚊取り線香を燻す
忌み	いみ	一年間の忌みがあける
鋳物	いもの	鋳物部品
芋虫	いもむし	町内の芋虫
嫌気	いやけ	嫌気をだすな
苛立つ	いらだつ	仕事がかばかしくなくて苛立つ
海豚	いるか	海豚の千匹連れ
入れ墨	いれずみ	二の腕に入れ墨をする
入れ知恵	いれぢえ	それはきっと誰かの入れ知恵に違いない
彩る	いろどる	壁を薄い黄色に彩る
鰯	いわし	鰯の頭も信心から
陰鬱	いんうつ	陰鬱な顔つき
因果	いんが	因果関係を明らかにする
印鑑	いんかん	印鑑を押す
陰気	いんき	陰気な話はもうするな
隠居	いんきょ	郊外に隠居する
因縁	いんねん	因縁とあきらめる
う		
鵜	う	鵜を使って魚をとる
初陣	ういじん	初陣に勝利を得る

右往左往	うおうさおう	馬の群れが右往左往する
迂回	うかい	山を迂回していく
穿つ	うがつ	壁に穴を穿つ
雨期	うき	雨期に入る
鶯	うぐいす	鶯をなかせたこともある
雨後	うご	雨後の竹のこのように続出する
蠢かす	うごめかす	得意げに鼻を蠢かす
渦	うず	争いの渦に巻き込まれる
蹲る	うずくまる	物かげに蹲る
薄手	うすで	彼は薄手のシャツを着ている
鶉	うずら	鶉の卵を食べる
右折	うせつ	右折禁止になっている
内気	うちき	内気で人に何も言えない
内金	うちきん	内金として千円払う
有頂天	うちょうてん	有頂天の喜びよう
内訳	うちわけ	その数の内訳は示されていない
鬱蒼	うつそう	鬱蒼たる森林
虚ろ	うつろ	虚ろなまなざし
腕相撲	うでずもう	腕相撲をする
独活	うど	独活の大木
鰻	うなぎ	鰻のかば焼き
海原	うなばら	海原はるかに見渡す
唸る	うなる	一晩中唸っていた
自惚れる	うぬぼれる	自分の才能に自惚れている
産着	うぶぎ	生まれてくる赤ちゃんの産着を作る
膿	うみ	膿がたまる
有無	うむ	回答の有無にかかわらず
呻く	うめく	けが人は一日中呻き続けた
羽毛	うもう	羽毛が生え変わる
右翼	うよく	飛行機の右翼が壊れている
裏表	うらおもて	物の裏表に通じた人
盂蘭盆	うらぼん	盂蘭盆会
漆	うるし	漆を塗る
浮気	うわき	彼は浮気で何にでも手を出す
上の空	うわのそら	上の空で聞いているから分からないのだ
上辺	うわべ	物の上辺だけしか見えない
雲泥	うんでい	雲泥の差
雲母	うんも	これは雲母鉄鉱だ

え		
栄華	えいが	栄華をきわめる
鋭敏	えいびん	手先の感覚が鋭敏だ
抉る	えぐる	腐った部分を抉る
餌食	えじき	悪者の餌食になる
会釈	えしゃく	軽く会釈する
得体	えたい	魚だか何だか得体が知れない
越冬	えっとう	越冬隊の生活は大変だ
得手	えて	得手に帆をあげる
恵比寿	えびす	七福神のひとりを恵比寿という
海老茶色	えびちゃいろ	黒みを帯びた赤茶色を海老茶色という
絵巻	えまき	絵巻を広げる
襟元	えりもと	襟元が寒い
遠隔	えんかく	遠隔測定をする
塩基	えんき	塩基性酸化物
縁起	えんぎ	このお宮の縁起は誰も知るまい
縁組み	えんぐみ	某家とめでたく縁組みが成立した
演算	えんざん	彼は演算が上手だ
円熟	えんじゅく	演技が円熟する
炎暑	えんしょ	炎暑をおかして工事を続ける
延焼	えんしょう	延焼を防ぐ
炎上	えんじょう	飛行機が炎上した
円錐	えんすい	これは円錐図法だ
宴席	えんせき	宴席に列する
延滞	えんたい	支払いが延滞している
延着	えんちゃく	この列車は二時間延着した
塩田	えんでん	塩田法
縁遠い	えんどおい	彼は文学とは縁遠い顔をしている
縁日	えんにち	ここには縁日商人が多い
燕尾服	えんぴふく	燕尾服姿で舞台に立つ
遠方	えんぽう	遠方から来る
閻魔	えんま	閻魔顔
お		
扇	おうぎ	扇で扇ぐ
黄金	おうごん	黄金万能の国はないだろう
王者	おうじゃ	海の王者となる
押収	おうしゅう	捜査の結果、多数の証拠物件を押収した
往生	おうじょう	畳の上で往生する

横断歩道	おうだんほどう	横断は横断歩道で
凹凸	おうとつ	路面の凹凸が激しい
大火事	おおかじ	地震で大火事が起こった
狼	おおかみ	狼がほえる
大柄	おおがら	彼は年にしては大柄だ
大目玉	おおめだま	大目玉をむく
大儲け	おおもうけ	彼は株で大儲けをした
大家	おおや	大家さんに家賃を納める
陸	おか	船から陸が見える
悪寒	おかん	風邪を引いたのか悪寒がする
掟	おきて	昔からの掟を破る
翁	おきな	ある村に竹取の翁がいた
奥歯	おくば	奥歯に物が挟まる
臆面	おくめん	臆面もない弁解だ
桶	おけ	桶で水を汲む
鴛鴦	おしどり	彼らは鴛鴦夫婦だ
和尚	おしょう	山寺の和尚だ
汚職	おしょく	汚職と浪費は重大な犯罪である
汚濁	おだく	河水が汚濁している
煽てる	おだてる	あれは煽てるとなんでもする男だ
乙女	おとめ	乙女時代は楽しかった
尾根	おね	尾根伝いに歩く
十八番	おはこ	十八番を出す
面影	おもかげ	顔に幼いときの面影がある
親船	おやぶね	親船に乗った気にいる
親分	おやぶん	彼はすりの親分だ
親譲り	おやゆずり	あのくせは親譲りだ
檻	おり	次々と檻から飛び出す
温室効果	おんしつこうか	温室のガラスと似た作用をするので、温室効果とよぶ
恩赦	おんしゃ	恩赦にあずかる
音波	おんぱ	音波を出す
か		
甲斐	かい	努力の甲斐が表れる
櫂	かい	櫂で舟をすすめる
外苑	がいえん	これは明治神宮外苑だ
凱歌	がいか	凱歌をあげる
貝殻	かいがら	貝殻で海を測る
外気	がいき	外気に触れる

皆既食	かいきしょく	初めて皆既食を見る
快拳	かいきょ	前例のない快拳
皆勤	かいきん	三年間皆勤する
蚕	かいこ	蚕を飼う
骸骨	がいこつ	骸骨のように瘦せた人
改札	かいさつ	発車の二十分前に改札をはじめる
改竄	かいざん	歴史の改竄
碍子	がいし	碍子は何ですか
凱旋門	がいせんもん	凱旋門は有名だ
快諾	かいだく	原作者の快諾を得て日本語に訳して出版した
懐中電灯	かいちゅうでんとう	懐中電灯をつける
該当	がいとう	それは第三条に該当する
海拔	かいばつ	エベレストは海拔 8848メートルである
回避	かいひ	責任を回避する
介抱	かいほう	寝ずに病人を介抱する
快方	かいほう	病気が快方に向かう
解剖	かいぼう	解剖の結果、死因がわかった
壊滅	かいめつ	壊滅的な打撃を受ける
湮	かいり	一湮は1852メートルにあたる
怪力	かいりき	怪力の持ち主
楓	かえで	私は楓が好きだ
踵	かかと	踵の高い靴をはいている
篝火	かがりび	篝火が見える
餓鬼	がき	餓鬼の目に水見えず
稼業	かぎょう	医者という稼業も楽ではない
格言	かくげん	「時は金なり」という格言がある
隔絶	かくぜつ	人間社会から隔絶した別天地のようだ
愕然	がくぜん	愕然として色を失う
匿う	かくまう	外国の亡命者を匿う
楽屋	がくや	早朝から楽屋入りをする
神楽	かぐら	神楽は神事で行われる舞楽だ
欠片	かけら	ガラスの欠片に気を付けてください
花崗岩	かこうがん	それは花崗岩だ
暈	かさ	月に暈がかかっている
風上	かざかみ	舟を風上に向けて航海する
翳す	かざす	軍刀をふり翳す
嵩む	かさむ	生活費が嵩む
慳	かし	慳を見たことがない

舵	かじ	舵を誤る
鍛冶屋	かじや	彼は鍛冶屋だ
果樹	かじゆ	果樹を栽培する
箇条	かじょう	問題の箇条を検討する
糟	かす	これは酒の糟だ
春日神社	かすがじんじゃ	春日神社は日本のどの県にあるか知っているか
霞	かすみ	霞がかかる
過疎	かそ	ここは過疎地帯だ
画像	がぞう	画像を掲げる
気質	かたぎ	学生気質を身につけていた
敵	かたき	彼は私の恋の敵である
蝸牛	かたつむり	田中さんは蝸牛が好きだ
喝采	かつさい	割れるような喝采が聞こえる
河童	かつぱ	河童連れが川で泳ぐ
恰幅	かつぷく	近頃彼は恰幅が良くなってきた
蚊取線香	かとりせんこう	蚊取線香をつける
金具	かなぐ	戸に金具を取り付ける
金槌	かなづち	金槌で釘をうつ
庇う	かばう	弱い者を庇う
兜	かぶと	兜を脱ぐ
株主	かぶぬし	株主総会
壁新聞	かべしんぶん	壁新聞を書く
上座	かみざ	上座につく
紙芝居	かみしばい	紙芝居をする
袷	かみしも	袷を着る
鴟	かもめ	鴟が海上を飛んでいる
蚊帳	かや	蚊帳をつる
茅葺	かやぶき	茅葺の農家
搦手	からめて	敵は搦手から攻めてきた
狩人	かりゅうど	狩人が熊狩をする
軽業	かるわざ	軽業をする
管轄	かんかつ	それは文部省の管轄だ
監獄	かんごく	監獄に入る
簪	かんざし	日本髪にきれいな簪をさす
癰癤	かんしゃく	癰癤を押える
顔色	がんしょく	顔色を和らげる
干拓	かんたく	児島湾を干拓する
勘当	かんどう	道楽にふけて勘当を受ける